

廃炉発官R6第171号
令和6年11月29日

原子力規制委員会 殿

東京都千代田区内幸町1丁目1番3号
東京電力ホールディングス株式会社
代表執行役社長 小早川 智明

福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画 変更認可申請書

核原料物質，核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第64条の3第2項の規定に基づき，別紙の通り，「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画」の変更認可の申請をいたします。

以 上

「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画」について、下記の箇所を別添の通りとする。

変更箇所、変更理由及びその内容は以下の通り。

○福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画

排気筒等以外から換気を行う場合における、測定項目や基準などの放出管理のルールを明確化するため、下記の通り変更を行う。

Ⅲ 特定原子力施設の保安

第1編 (1号炉, 2号炉, 3号炉及び4号炉に係る保安措置)

第6章 放射性廃棄物管理

第42条の2

- ・放射性気体廃棄物の排気筒又は排気口以外からの放出管理に係る記載の追加

附則

- ・調達部及び水処理センター設置完了に伴う記載削除
- ・2号炉原子炉建屋オペレーティングフロア及び燃料取り出し用構台換気設備運用開始に伴う記載削除

第2編 (5号炉及び6号炉に係る保安措置)

第6章 放射性廃棄物管理

第89条

- ・放射性気体廃棄物の排気筒等以外からの放出管理に係る記載の追加

附則

- ・調達部及び水処理センター設置完了に伴う記載削除

以 上

別添

第1編

(1号炉, 2号炉, 3号炉及び4号炉に係る保安措置)

(放射性気体廃棄物の管理)

第42条の2

分析評価GMは、表42の2-1に定める項目について、同表に定める頻度で測定し、測定した結果を放出・環境モニタリングGMに通知する。また、放出・環境モニタリングGMは、次の事項を管理するとともに、その結果を放出実施GMに通知する。

(1) 排気筒又は排気口からの放射性気体廃棄物の放出による周辺監視区域外の空気中の放射性物質濃度の3ヶ月平均値が、法令に定める周辺監視区域外における空気中の濃度限度を超えないこと。

2. 放出実施GMは、放射性気体廃棄物を放出する場合は、排気筒又は排気口より放出する。また、当直長は排気放射線モニタの指示値を監視する。

3. 表42の2-1に示す排気筒又は排気口を有する施設・設備において、当該排気筒又は排気口以外の場所において換気を行う場合は、次の措置を講じる。ただし、第48条第1項(1)又は第49条第1項(1)に定める区域における換気は、この限りでない。

(1) 各GMは、フィルタ付局所排風装置等により法令に定める管理区域に係る値を超えないよう拡散防止措置を行う。

(2) 放出・環境モニタリングGMは、表42の2-2に定める項目について、同表に定める頻度で測定し、法令に定める管理区域に係る値を超えていないことを確認する。ただし、換気によって放出される空気中放射性物質の濃度が法令に定める管理区域に係る値を超えるおそれがない場合は、この限りでない。

表42の2-1

| 放出箇所 | 測定項目 | 計測器種類 | 測定頻度 | 放出実施GM |
|----------------|--|---------------|----------------------------|--------|
| 焼却炉建屋 排気筒 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出 核種, 全ベータ放射 能) | 試料放射能 測定装置 | 1週間に1回 (建屋換気空調系運 転時) | 運用支援GM |
| | ストロンチウム90 濃度 | 試料放射能 測定装置 | 3ヶ月に1回 (建屋換気空調系運 転時) | |
| 増設焼却炉 建屋排気筒 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出 核種, 全ベータ放射 能) | 試料放射能 測定装置 | 1週間に1回 (建屋換気空調系運 転時) | 運用支援GM |
| | ストロンチウム90 濃度 | 試料放射能 測定装置 | 3ヶ月に1回 (建屋換気空調系運 転時) | |

| 放出箇所 | 測定項目 | 計測器種類 | 測定頻度 | 放出実施GM |
|---|--|--------------------------------|----------------------------|------------------|
| 使用済燃料 共用プール 排気口 | 希ガス濃度 | 排気放射線 モニタ (シンチレ ーション) | 常時 (建屋換気空調系運 転時) | 当直長 |
| | よう素131濃度 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出 核種) | 試料放射能 測定装置 | 1週間に1回 (建屋換気空調系運 転時) | |
| 分析・研究施 設第1棟排 気口 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出 核種, 全アルファ放 射能, 全ベータ放射 能) | 試料放射能 測定装置 | 1週間に1回 (建屋換気空調系運 転時) | 分析評価GM |
| | ストロンチウム90 濃度 | 試料放射能 測定装置 | 3ヶ月に1回 (建屋換気空調系運 転時) | |
| 大型機器除 染設備排気 口及び汚染 拡大防止ハ ウス排気口 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出 核種, 全ベータ放射 能) | 試料放射能 測定装置 | 1週間に1回 (除染設備運転時) | 運用支援GM |
| | ストロンチウム90 濃度 | 試料放射能 測定装置 | 3ヶ月に1回 (除染設備運転時) | |
| 油処理装置 排気口 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出 核種, 全ベータ放射 能) | 試料放射能 測定装置 | 1週間に1回 (油処理装置運転時) | 地下水対策設備 GM |
| | ストロンチウム90 濃度 | 試料放射能 測定装置 | 3ヶ月に1回 (油処理装置運転時) | |
| 大型廃棄物 保管庫排気 口 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出 核種, 全ベータ放射 能) | 試料放射能 測定装置 | 1週間に1回 (建屋換気設備運転 時) | 廃棄物対策 プログラム部長 |
| | ストロンチウム90 濃度 | 試料放射能 測定装置 | 3ヶ月に1回 (建屋換気設備運転 時) | |

| 放出箇所 | 測定項目 | 計測器種類 | 測定頻度 | 放出実施GM |
|-----------------------------------|----------------------------------|-----------|------------------------|--------------|
| 減容処理設備排気口 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出核種, 全ベータ放射能) | 試料放射能測定装置 | 1週間に1回 (建屋換気空調系運転時) | 運用支援GM |
| | ストロンチウム90濃度 | 試料放射能測定装置 | 3ヶ月に1回 (建屋換気空調系運転時) | |
| 固体廃棄物貯蔵庫第9棟排気口 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出核種, 全ベータ放射能) | 試料放射能測定装置 | 1週間に1回 (建屋換気空調系運転時) | 廃棄物対策プログラム部長 |
| | ストロンチウム90濃度 | 試料放射能測定装置 | 3ヶ月に1回 (建屋換気空調系運転時) | |
| 固体廃棄物貯蔵庫第10棟排気口 (10-A/B, 10-C) | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出核種, 全ベータ放射能) | 試料放射能測定装置 | 1週間に1回 (建屋換気空調系運転時) | 廃棄物対策プログラム部長 |
| | ストロンチウム90濃度 | 試料放射能測定装置 | 3ヶ月に1回 (建屋換気空調系運転時) | |

表42の2-2

| | 測定項目 | 計測器種類 | 測定頻度 |
|-----------------|---|-----------|---------|
| 排気筒又は排気口以外の排気出口 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出核種, 全アルファ放射能, 全ベータ放射能) ※1 | 試料放射能測定装置 | 作業の都度※2 |

※1：全アルファ放射能, 全ベータ放射能の測定有無は, 表42の2-1に示す排気筒又は排気口における測定項目に準じる。

※2：作業が1週間を超える場合は1週間に1回測定する。

附 則

附則（ ）

(施行期日)

第1条

この規定は、原子力規制委員会の認可を受けた日から10日以内に施行する。

附則（令和6年4月22日 原規規発第2404223号）

(施行期日)

第1条

2. 添付1（管理区域図）の全体図及び添付2（管理対象区域図）の全体図の変更は、化学分析棟の増床部の運用開始をもって適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和5年3月7日 原規規発第2303075号）

(施行期日)

第1条

2. 添付2（管理対象区域図）の全体図における瓦礫類一時保管エリアの変更は、それぞれの区域の変更をもって適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和5年2月21日 原規規発第2302212号）

(施行期日)

第1条

2. 第42条の2の表42の2-1における固体廃棄物貯蔵庫第10棟排気口から放出される放射性気体廃棄物の管理については、固体廃棄物貯蔵庫第10棟の運用を開始した時点から適用することとし、それまでの間は従前の例による。
3. 添付1（管理区域図）の全体図及び固体廃棄物貯蔵庫第10棟の管理区域図面並びに添付2（管理対象区域図）の全体図及び固体廃棄物貯蔵庫第10棟の管理対象区域図面の変更は、それぞれの区域の区域区分の変更をもって適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和4年10月27日 原規規発第2210277号）

(施行期日)

第1条

2. 第42条については、1号大型カバー換気設備の運用を開始した時点から適用するこ

ととし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和4年4月22日 原規規発第2204221号）

（施行期日）

第1条

3. 第60条及び第61条については、2号炉燃料取り出し用構台におけるエリアモニタの運用を開始した時点から適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和3年4月6日 原規規発第2104063号）

（施行期日）

第1条

2. 第5条、第38条、第39条及び第42条の2については、減容処理設備の運用を開始した時点から適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和2年8月3日 原規規発第2008037号）

（施行期日）

第1条

2. 添付1（管理区域図）の全体図における免震重要棟及び入退域管理棟、添付2（管理対象区域図）の全体図における免震重要棟及び入退域管理棟並びに免震重要棟及び入退域管理棟の管理対象区域図面の変更は、それぞれの区域の区域区分の変更をもって適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和2年5月27日 原規規発第2005271号）

（施行期日）

第1条

2. 第5条、第40条及び第42条の2については、大型廃棄物保管庫の運用を開始した時点から適用することとし、それまでの間は従前の例による。
3. 添付1（管理区域図）の全体図及び大型廃棄物保管庫の管理区域図面並びに添付2（管理対象区域図）の全体図及び大型廃棄物保管庫の管理対象区域図面の変更は、それぞれの区域の区域区分の変更をもって適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（平成28年12月27日 原規規発第1612276号）

（施行期日）

第1条

2. 第40条の2における水位の監視については、水位計の設置が完了した貯留設備から順次適用する。

附則（平成25年8月14日 原規福発第1308142号）

（施行期日）

第1条

2. 第17条第3項及び第4項の1号炉復水貯蔵タンク水については、運用開始時点から適用する。

第2編

(5号炉及び6号炉に係る保安措置)

(放射性気体廃棄物の管理)

第 89 条

分析評価GMは、表 89-1 に定める項目について、同表に定める頻度で測定し、測定した結果を放出・環境モニタリングGMに通知する。また、放出・環境モニタリングGMは、次の事項を管理するとともに、その結果を放出実施GMに通知する。

(1) 排気筒等からの放射性気体廃棄物の放出による周辺監視区域外の空気中の放射性物質濃度の 3 ヶ月平均値が、法令に定める周辺監視区域外における空気中の濃度限度を超えないこと。

(2) 排気筒等からの放射性物質（希ガス，よう素 131）の放出量が、表 89-2 に定める放出管理目標値を超えないように努めること。

2. 放出実施GMは、放射性気体廃棄物を放出する場合は、排気筒等より放出し、排気筒モニタを監視する。

3. 表 89-1 に示す排気筒等を有する施設・設備において、当該排気筒等以外の場所において換気を行う場合は、次の措置を講じる。ただし、第 93 条の 2 第 1 項 (1) 又は第 93 条の 3 第 1 項 (1) に定める区域における換気は、この限りでない。

(1) 各GMは、フィルタ付局所排風装置等により法令に定める管理区域に係る値を超えないよう拡散防止措置を行う。

(2) 放出・環境モニタリングGMは、表 89-3 に定める項目について、同表に定める頻度で測定し、法令に定める管理区域に係る値を超えていないことを確認する。ただし、換気によって放出される空気中放射性物質の濃度が法令に定める管理区域に係る値を超えるおそれがない場合は、この限りでない。

表 8 9 - 1

| 分 類 | 排気筒等 | 測定項目 | 計測器種類 | 測定頻度 | 放出実施 GM |
|--------------|--|---|---------------|-------------------------------|----------------------|
| 放射性 気体廃棄物 | ・ 5, 6 号炉 共用排気筒 | 希ガス濃度 | 排気筒モニタ | 常時 (建屋換気空調系 運転時) | 当直長 |
| | | よう素 131 濃度 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線 放出核種) | 試料放射能 測定装置 | 1 週間に 1 回 (建屋換気空調系 運転時) | |
| | ・ 焼却炉建屋 排気筒 ・ 増設焼却炉 建屋排気筒 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線 放出核種, 全ベ ータ放射能) | 試料放射能 測定装置 | 1 週間に 1 回 (建屋換気空調系 運転時) | 運用支援 GM |
| | | ストロンチウム 90 濃度 | 試料放射能 測定装置 | 3 ヶ月に 1 回 (建屋換気空調系 運転時) | |
| | ・ 減容処理設 備排気口 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線 放出核種, 全ベ ータ放射能) | 試料放射能 測定装置 | 1 週間に 1 回 (建屋換気空調系 運転時) | 運用支援 GM |
| | | ストロンチウム 90 濃度 | 試料放射能 測定装置 | 3 ヶ月に 1 回 (建屋換気空調系 運転時) | |
| | ・ 固体廃棄物 貯蔵庫第 9 棟 排気口 ・ 固体廃棄物 貯蔵庫第 10 棟 排 気 口 (10-A/B , 10-C) | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線 放出核種, 全ベ ータ放射能) | 試料放射能 測定装置 | 1 週間に 1 回 (建屋換気空調系 運転時) | 廃棄物対策 プログラム 部長 |
| | | ストロンチウム 90 濃度 | 試料放射能 測定装置 | 3 ヶ月に 1 回 (建屋換気空調系 運転時) | |

表 8 9 - 2

| 項 目 | 放出管理目標値 |
|----------|----------------------------------|
| 放射性気体廃棄物 | |
| 希ガス | 2. 4 × 1 0 ¹⁴ B q / 年 |
| よう素 131 | 8. 4 × 1 0 ⁷ B q / 年 |

表 8 9 - 3

| | 測定項目 | 計測器種類 | 測定頻度 |
|---------------------|---|---------------|---------|
| 排気筒等 以外の排気 出口 | 粒子状物質濃度 (主要ガンマ線放出 核種, 全アルファ放 射能, 全ベータ放射 能) ※1 | 試料放射能 測定装置 | 作業の都度※2 |

※1 : 全アルファ放射能, 全ベータ放射能の測定有無は, 表 8 9 - 1 に示す排気筒等における測定項目に準じる。

※2 : 作業が 1 週間を超える場合は 1 週間に 1 回測定する。

附 則

附則（ ）

(施行期日)

第1条

この規定は、原子力規制委員会の認可を受けた日から10日以内に施行する。

附則（令和6年4月22日 原規規発第2404223号）

(施行期日)

第1条

2. 添付1（管理区域図）の全体図及び添付2（管理対象区域図）の全体図の変更は、化学分析棟の増床部の運用開始をもって適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和5年3月7日 原規規発第2303075号）

(施行期日)

第1条

2. 添付2（管理対象区域図）の全体図における瓦礫類一時保管エリアの変更は、それぞれの区域の変更をもって適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和5年2月21日 原規規発第2302212号）

(施行期日)

第1条

2. 第89条の表89-1における固体廃棄物貯蔵庫第10棟排気口から放出される放射性気体廃棄物の管理については、固体廃棄物貯蔵庫第10棟の運用を開始した時点から適用することとし、それまでの間は従前の例による。
3. 添付1（管理区域図）の全体図及び固体廃棄物貯蔵庫第10棟の管理区域図面並びに添付2（管理対象区域図）の全体図及び固体廃棄物貯蔵庫第10棟の管理対象区域図面の変更は、それぞれの区域の区域区分の変更をもって適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和3年4月6日 原規規発第2104063号）

(施行期日)

第1条

2. 第5条、第87条、第87条の2及び第89条については、減容処理設備の運用を開

始した時点から適用することとし、それまでの間は従前の例による。

附則（令和2年8月3日 原規規発第2008037号）

（施行期日）

第1条

2. 添付1（管理区域図）の全体図における免震重要棟及び入退域管理棟，添付2（管理対象区域図）の全体図における免震重要棟及び入退域管理棟並びに免震重要棟及び入退域管理棟の管理対象区域図面の変更は，それぞれの区域の区域区分の変更をもって適用することとし，それまでの間は従前の例による。

附則（令和2年5月27日 原規規発第2005271号）

（施行期日）

第1条

2. 第5条については，大型廃棄物保管庫の運用を開始した時点から適用することとし，それまでの間は従前の例による。
3. 添付1（管理区域図）の全体図及び大型廃棄物保管庫の管理区域図面並びに添付2（管理対象区域図）の全体図及び大型廃棄物保管庫の管理対象区域図面の変更は，それぞれの区域の区域区分の変更をもって適用することとし，それまでの間は従前の例による。

「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画」 の変更認可の申請
に関する核セキュリティ及び保障措置への影響について

<申請書>

| | |
|------|---|
| 申請件名 | 放射性気体廃棄物の排気筒等以外からの放出管理に係る変更 |
| 申請概要 | 排気筒等以外から換気を行う場合に、排気筒等における測定と同様の測定を実施し、基準値を下回っていることを確認した上で放出を行うことを実施計画に追記し、放出管理のルールを明確化する（震災前の保安規定と同様の記載）。 |

上記の申請に関する核セキュリティ及び保障措置への影響の有無についての確認結果を以下に示す。

<核セキュリティ及び保障措置への影響の有無>

| | 確認項目 | 影響の有無 | 備考 |
|-------------|--|-------|---------------------------------|
| 核セキュリティへの影響 | ① 防護対象の追加等による影響の有無 | 無 | 防護対象の追加等はないため、影響無し。 |
| | ② 侵入防止対策に係る性能への影響の有無 | 無 | 防護設備及び監視体制に変更を及ぼすものではないため、影響無し。 |
| 保障措置への影響 | ① 設計情報質問表（DIQ:Design Information Questionnaire）への影響の有無 | 無 | 変更手続きが必要な事項に該当しないため、影響無し。 |
| | ② 査察機器の移設又は新規設置の有無 | 無 | 既存の査察機器との干渉がないため、影響無し。 |
| | ③ サイト内建物報告の観点から、恒久的な建物・構造物の新設の有無 | 無 | 既報告の内容に変更がないため、影響無し。 |
| | ④ 既存の査察実施方針への影響の有無 | 無 | 既存のIAEA査察内容（施策）での対応可能。 |